

# これからの市民協働推進の方向性

## ＜これまでの方向性＞

### 市民活動がしやすい環境づくり

市民の自由な発想と自発的な活動を大切に、市民が生き生きと活動できる環境整備を推進

- ・活動に関する相談機能の整備(市民協働センター)
- ・活動資金の支援(市民活動推進事業補助金)
- ・活動の場の提供(アオーレ長岡)

様々な活動が芽生えるとともに、自由な発想に基づく魅力的な活動や、高い公共性を有する多様な活動が活発に展開されています。

### A まちの魅力や活力を創出する活動

趣味や特技を活かした活動を広く発信することで、まちの魅力や活力を創出する活動

〔活動例〕

- 股旅あい好会   ○与板キャンドルイベント   ○生け花パフォーマンス
- 空き屋を活用したアートギャラリー   ○手作り竹水鉄砲合戦

### B 社会課題などに対応する活動

日々の暮らしのなかに不便やニーズを感じ、自分達の力で課題を解決しようとする活動

〔活動例〕

- ひきこもりの支援   ○なごみの会   ○自主防災会による災害対策
- 里山保全のための森林塾   ○障害を持つ子どもの寺子屋

### C 高い組織力と実績を有する社会貢献活動

社会課題の解決などを使命とし、高い組織力を活かした活動(NPO法人・一般財団など)

〔活動例〕

- フェニックスプロジェクト   ○UNEどぶろくの製造・販売
- 高校生ラーメン選手権を通じた経営人材育成

## 「見えてきた課題」

### 1 資金的な自立

◆市民活動のなかには、安定した自主財源や寄付を確保していくことが困難であるが、社会的ニーズは高く、継続が望まれる活動であり、行政による支援の継続が必要なものなど、様々な形がある。

❖ 様々な性質や活動のレベルを一律に捉えて自立を促すことは、不適當でないか？

### 2 事業者の役割に対する期待

◆人口減少や少子高齢化から生じる諸問題に対しては、高い組織力と実績を有する市民力が必要であり、今後、事業者の幅広い連携と合わせ、行政ともスクラムを組むことで、価値ある活動を生み出していくことが求められている。

❖ 自由で柔軟な発想と行動力を有する市民活動と、縦割りの責任を持つ行政が適切にスクラムを組むための「仕組みづくり」が必要

## ＜これからの方向性＞

「これまでの市民活動の環境づくり」  
＋  
「新たな価値や活力を生み出す市民力の創出」(戦略的支援)

活動ごとの性質やレベルなどを意識した複眼的視点を取り入れた支援・施策を講じることにより、新しい価値の創出を目指した市民協働の推進を図る。

### 〔取組みの方向性〕

- ①最初の一步を踏み出す活動  
❖これまでどおり、相談や補助金などによる支援を行う
- ②資金的自立が可能な活動  
❖資金繰りのアドバイスと合わせ段階的に補助金を縮小するなど、自助努力による資金の確保を促す支援を行う。
- ③資金的自立が困難な活動  
❖補助金審査時に、公益性の度合いや活動実績を評価し、「継続枠」を設けるなど活動の持続を促す支援を行う。
- ④高い組織力と実績を有する活動  
❖高い専門性やノウハウを有する団体の新たな取組みや、団体同士が連携・交流することによる新たな価値の創出を支援する。

〔④の施策例〕

- ❖複数の行政分野にまたがる官民協働事業としての戦略的補助制度の構築
- ❖協働センターのプラットフォーム機能強化
- ❖行政内部の連携強化